



日本民家集落博物館

重要文化財旧椎葉家住宅主屋・馬屋保存修理工事の起工式

もくじ

- | | |
|--|--|
| <p>P. 2 ● 新役職員の紹介
—平成 19 年度人事異動—</p> <p>P. 3 ● 理事会・評議員会
● 旧椎葉家住宅修理起工式
● 平成 19 年度文化財講座
● 記録映画制作</p> <p>P. 4 ● 千葉県 史跡と考古の旅
● 発掘体験
● 郷土の文化財を見学する会
● 近畿版出土遺物データベース</p> | <p>P. 5 ● 指定管理者としての一年
—大阪府立博物館の運営—</p> <p>● リレー講演会
● スポット展示</p> <p>P. 6 ● 現地公開・現地説明会</p> <p>P. 7 ● トピックス
* 玉櫛遺跡 06 - 1 出土の木製鞍
● 平成 18 年度刊行図書</p> <p>P. 8 ● 弥生文化博物館 夏の展示ご案内
● 近つ飛鳥博物館 夏の展示ご案内
● 日本民家集落博物館 催しご案内(8月~11月)</p> |
|--|--|

新職員の紹介 —平成19年度の人事異動—

【4月1日付け新任役職員】

理事 総山哲男 大阪府教育委員会教育長
理事 井藤 徹 日本民家集落博物館館長
評議員 木村 博 能勢町教育委員会教育長（3/29 付）

新規派遣

〈大阪府から派遣〉

中川隆雄 事務局次長兼総務部長
袋井龍成 総務課総務係長
菅谷昌子 総務課総務係主事
栗野邦一 調整課設計係長
関 真一 中部調査事務所池島支所調査第二係技師
藤澤眞依 南部調査事務所調査第一係長
井西貴子 南部調査事務所調査第一係技師

新規採用

〈事務総括〉

勝山順一 京阪調査事務所
村田 将 南部調査事務所

〈専門員〉

石神幸子 中部調査事務所

〈専門調査員〉

東影 悠 京阪調査事務所調査第一係
村田裕介 京阪調査事務所調査第二係
垣内拓郎 京阪調査事務所調査第三係
松岡淳平 同
市来真澄 京阪調査事務所調査第四係
橋本俊範 中部調査事務所
吉田知史 中部調査事務所調査係
飯田浩光 中部調査事務所池島支所調査第一係
乾 哲也 同
重松辰治 中部調査事務所池島支所調査第二係

〈普及部学芸員〉

大原 瞳 普及資料課企画普及係
宮田佳代 同 （7/1 付）

—近つ飛鳥博物館—

浅田 稔 事務局参与兼近つ飛鳥博物館副館長
兼企画管理課長

中野 孝 企画管理課事務主任
福原輝幸 同 広報主任
高松雅文 学芸課 学芸員

—日本民家集落博物館—

奥村直樹 副館長

【3月31日付け退任・退職者】

〈任期満了〉 理事 竹内 脩
〈辞任〉 評議員 矢加部英敏（3/29 付）

〈退職〉

石神幸子 京阪調査事務所調査第四係長
岩本重和 京阪調査事務所事務総括
巽 利文 近つ飛鳥博物館副館長兼企画管理課長
中村友三 日本民家集落博物館副館長
遠藤啓輔 京阪調査事務所調査第五係 専門調査員
岩立美香 中部調査事務所 同
長嶺 睦 中部調査事務所調査第一係 同
降矢哲男 中部調査事務所調査第二係 同
池田 晋 同
鬼頭 彰 中部調査事務所池島支所調査第一係 同
青柳佳奈 普及資料課企画普及係学芸員

〈大阪府へ復職〉

浅田 稔 総務部長（退職）
藤川 保 総務課総務係長
朝間理恵 総務課総務係主事
山上 弘 調整課調整第二係長
松元政美 調整課設計係長
大楽康宏 京阪調査事務所調査第一係主査
岡本敏行 南部調査事務所調査第一係長
山田隆一 南部調査事務所調査第二係技師
小浜 成 近つ飛鳥博物館学芸課総括学芸員

〈(財)京都市埋蔵文化財研究所へ復職〉

内田好昭 京阪調査事務所調査第一係技師
高橋 潔 同

〈(財)大阪市文化財協会へ復職〉

積山 洋 南部調査事務所調査第一係主査
小倉徹也 南部調査事務所調査第二係技師
池田 研 同

【4月以降退任・退職者】

〈任期満了〉 （6/25 付）

評議員 林野全孝
評議員 東 利也

〈大阪府へ復職〉（4/15 付）

亀島重則 南部調査事務所調査第一係主査

〈退職〉

大原 瞳 普及資料課企画普及係学芸員 （4/30 付）
東影 悠 京阪調査事務所調査第一係専門調査員
（6/30 付）

〈(財)京都市埋蔵文化財研究所へ復職〉

網 伸也 京阪調査事務所調査第三係技師（6/30 付）

理事会・評議員会

平成19年3月29日(木)にホテルアウィーナ大阪で平成18年度第2回評議員会・理事会が開催された。

平成19年度事業計画(案)及び収支予算(案)並びに平成18年度補正予算(案)について審議され、原案どおり承認された。

また、人事案件として平成19年4月1日から2年間任期の次期の理事が選任された。その際、竹内脩理事(前大阪府教育委員会教育長)の退任に伴い後任に総山哲男氏(現大阪府教育委員会教育長)が、堅田直理事死去に伴う後任に井藤徹氏(日本民家集落博物館館長)が新理事に選任された。

平成19年6月22日(金)にホテルアウィーナ大阪で平成19年度第1回評議員会・理事会が開催された。

平成18年度事業報告及び収支決算について審議され、原案どおり承認された。

また、人事案件として平成19年6月26日から2年間任期の次期の評議員が選任された。その際、林野全孝評議員及び東利也評議員の両氏が退任された。なお、後任人事はなかった。

また、当日は池田良治評議員(弁護士)による「公益財団法人について」の講演があった。

旧椎葉家住宅修理起工式

平成19年5月21日(月)に日本民家集落博物館(服部緑地内)の重要文化財旧椎葉家住宅主屋・馬屋保存修理工事の起工式があった。昭和34年にこの地に移築復元後、屋根葺き替え等の数度の修理を行ってきたが、平成7年の阪神淡路大震災の折に基礎の沈下が激しくなり、建物全体が傾くなど老朽化が進み改修することとなった。

この改修工事には、多額の費用が発生することから、国や大阪府からの補助金に加え、民間企業等からの寄附金を募りその費用の捻出を図った。このたび、各方面からの寄附金等の温かい援助により、改修工事の起工式を迎えることができた。



起工式風景

平成19年度文化財講座

今年度は「難波津から東アジアへー遣隋使からの1400年間ー」のテーマで6月9日から弥生文化博物館においてスタートした。第1回目は、東京大学教授の佐藤信先生が「遣隋使から遣唐使へー古代の日中韓関係ー」について講演された。先生は丁寧な口調で文献は勿論、考古学資料も加えて克明に説明され、遣使以前の大陸との交渉から白村江の戦いを中心に、平安時代までの中央と地方と中韓との文化・政治の交流について話された。

今回の講座は日本書紀、推古天皇15(607)年小野妹子が派遣され、隋使、裴世清が来日した記事から遣隋使が始まり、その後の日本の歴史に大きな影響をあたえた事を記念して企画した。日本の政治制度や都・ムラの人々の暮らしにもその影響が見られる。大阪は古代に「難波宮」が営まれ、国際交流の要の土地で、この後、平城京・長岡京・平安京の時代まで唐や新羅・渤海との交流が存在した。これらの各時代について「難波大阪」に関連する古代史や埋蔵文化財の成果を交えて一般の方々に向けた講座を開催することとした。この講座は大阪周辺からの方々や郷土を考え、文化財保護を想う上に非常に重要な役割を果たすものとする。2回目は7月1日(日)「古代の難波と難波津」中尾芳治(元帝塚山学院大学教授)3回目8月5日(日)「日本都城の源流ー隋唐長安城ー」町田章(前奈良文化財研究所所長)4回目9月22日(土)「遣唐使の輸出品」東野治之(奈良大学教授)が予定されている。



第1回 佐藤 信氏講演風景

記録映画制作

- ①「池内遺跡～私たちの発掘体験～」
 - ②「身近なところに文化財！！平成18年度現地説明会」
- 平成18年度文化庁埋蔵文化財保存活用国庫補助事業で製作した。①は松原市池内遺跡で今宮高校の生徒達が発掘体験し、秋の文化祭で発表するまでの姿を描くドキュメントフィルムである。②は平成18年度の現地説明会5ヶ所を6～9分にまとめDVDに記録した。

千葉県 史跡と考古の旅

池上曾根史跡公園協会・弥生文化博物館との共催ツアー第8弾。今回は5月29～31日に千葉県が舞台でした。

「房総の縄文遺跡と古墳を訪ねて」というサブタイトル通り、堀之内・飛ノ台・加曾利の縄文時代貝塚、発生期古墳である神門5号墳、後期の龍角寺古墳群、奈良時代の国分尼寺を実地踏査。加えて、9か所の博物館・資料館・文化財センターも見学しました。

関東地方にある千葉県の考古遺跡を巡る旅で、参加者が日頃接している近畿地方とは異なる風土や文化要素に触れることができました。



千葉市加曾利貝塚での見学

郷土の文化財を見学する会

見学会は年10回。多様な見学コースが目白押しです。

第343回例会（4月22日）は、「茨木の古墳と西国街道を歩く」として、雨の中、西国街道を経て、椿の本陣を見学。耳原古墳の石室や川端康成記念館も訪れました。

第344回例会（5月13日）は「葛城の前方後円墳と古い町並みを歩く」。奈良県葛城市内の昔懐かしい町並みを巡った後、3基の古墳と歴史博物館を見学しました。

第345回例会（6月3日）は、「岸和田城下いまむかし」。自然資料館やだんじり会館を含めて城下を回り、最後に岸和田城に登城しました。



第345回例会で岸和田城に登城

発掘体験

2007年5月14日（月）に、歴史学習で古墳時代を学んでいる寝屋川市立堀溝小学校6年生70名が、京阪調査事務所寝屋川分室の見学にきました。恒例となりつつある3班に分かれての学習に10時前から11時半頃まで熱心に取り組んでいました。

また、池島・福万寺遺跡では、現地公開に併せて地元の小学生にも見学の機会をもちました。5月17日（木）には八尾市立北山本小学校の6年生41名、5月22日（火）には東大阪市立池島小学校の6年生119名が参加し、出土土器や復元された農具の説明に興味深げに聞いていました。（山岡平和）



出土土器などの説明

近畿版出土遺物データベース

全国埋蔵文化財法人連絡協議会の近畿ブロックでは、近畿版出土遺物データベースの作成を継続しています。

「近畿版出土遺物データベース」は、報告書の中から重要と思われる遺物を抽出したもので、画像を優先させたことが特徴です。

2005年1月に「近畿版出土遺物データベース Ver.1」を作成いたしました。レコード数は331件です。

2006年2月に「近畿版出土遺物データベース Ver.2」を作成いたしました。レコード数は471件です。

本年度も継続して実施します。3年度の結果により、今後の方向性を決定します。（村上年生）



近畿版出土遺物データベース

指定管理者としての一年 —大阪府立博物館の運営—

大阪府立弥生文化博物館と同近つ飛鳥博物館および近つ飛鳥風土記の丘を、当センターが指定管理者として運営するようになって、本年3月末でまる1年が経過した。この間、金関恕弥生文化博物館長、白石太一郎近つ飛鳥博物館長お二人のご指導のもと、スタッフ一同の健闘ぶりには目をみはるものがあった。

弥生文化博物館では、春季特別展「弥生画帖」、秋季特別展「弥生人躍動す」、冬季特別展「発掘された日本列島2006」、と特別展3回、夏季企画展示「とんぼ玉100人展」、冬季企画展示(財)大阪府文化財センター小テーマ展示「シリーズここまでわかった考古学—弥生人現れる—」と企画展示2回を行い、これらの会期中には講演会や報告会を多数開催した。またロビーで行うミュージアムコンサートも11回開催した。これらはいずれも好評で、毎回多数の参加者を数えた。これ以外にも、講演会や共同研究の発表会、ワークショップ、ミニギャラリー、体験学習、学校との連携セミナー、博物館実習の受入れ、出前授業、教員の博物館研修等々、従来の事業をしのぐ活動を行った。年間2回だった特別展を3回行ったこと、ミュージアムコンサートも前年度の2倍以上開催したことなどは特筆にあたいする。展示企画や図録の内容、講演会等も質の高いもので、アンケート結果がそのことをよく物語っている。

近つ飛鳥博物館でも同様に、春季特別展「古代の工房」、秋季特別展「応神大王の時代」、冬季特別展—発掘された

日本列島2006地域展—「河内湖周辺に定着した渡来人」と特別展を3回(前年度よりも1回多い)、夏季企画展示「夏休み親子で学ぶむかしの台所いまの台所」、冬季企画展示は(財)大阪府文化財センターとの共催による、小テーマ展示「シリーズここまでわかった考古学—出土木器が語る考古学—」と企画展示2回を開催し、これに伴う講演会、シンポジウムをはじめ、弥生文化博物館の場合と同じく、実にさまざまな行事、活動を行った。こうした中で、講演会の聴講者が会場のホールはもとより、会場横のモニター席からもあふれる状況になったこともしばしばであった。ここでも展示や講演会の企画が質の高いものであったことが証明された。このようなスタッフの努力の結果、両博物館とも凋落傾向が続いていた入館者数、入館料収入において、前年度なみあるいは前年度を上回る成績をあげることができた。

ところで、博物館法や登録制度、博物館評価、学芸員資格制度の在り方々々について、最近かまびすしい議論が行われている。例えば学芸員の質の向上をはかるために上級学芸員を創設するなどである。しかし、制度や法律をいくらいじくっても、市場化テストや指定管理者制度のもと、安あがりの博物館を至上のものとする限り、まともな学芸員が育つはずはないであろう。

それはそれとして、我々は指定管理者として残りの4年間、府民の考古学や歴史学に対する関心に答えられる博物館であり続けねばならない。(福岡澄男)

リレー講演会

2006年度の新企画として、「考古学と歴史学を語る」という共通テーマのもとに、大阪府立3博物館館長と(財)大阪府文化財センター理事長とによるリレー講演会が催され、会場が溢れかえるほどの好評を博した。いずれの会場も午後2時から午後3時30分までの講演で、講演会場に入れない聴講希望者のため、急遽、ホールに特設の聴講会場を設営した。

参加者は60歳代を中心に10歳代から80歳代に及び、近県のみならず遠方の群馬・愛知・三重・四国の各県からの参加もあった。

日程等の詳細を下記に記す。

- ① 2月12日(月・振替休) 於：大阪府立弥生文化博物館
「古いの考古学」 館長 金関 恕
- ② 3月 3日(土) 於：大阪府立狭山池博物館
「世界遺産と考古学」 館長 工楽 善通
- ③ 3月21日(水・祝日) 於：大阪府立近つ飛鳥博物館
「最初の倭国王は誰か」 館長 白石太一郎
- ④ 3月31日(土) 於：大阪府立狭山池博物館
「救ひの考古学」
(財)大阪府文化財センター理事長 水野 正好

スポット展示

発掘調査の最新成果をいちやくお伝えするスポット展示。7月7日～14日の間、大阪府立弥生文化博物館において「湊遺跡出土の製塩土器」展をおこなった。

製塩土器は古墳時代初頭のもので、狭い範囲からまよって出土した。完全な形に復元でき、未使用であることがわかった。製塩土器の全体像と製造方法を知る上で貴重な発見となる資料に見学者の興味は尽きないようであった。



展示風景

現地公開・現地説明会

平成19年4月～6月中旬までに、大阪府文化財センターでは現地説明会ならびに地元住民向けの現地公開を計7回開催し、総数1373人の参加者があった。以下で、開催された順番に沿って概略を記す。

堺環濠都市遺跡06-2では、天正3年(1575年)の火災で焼失した塙列建物(蔵)・礎石建物・通路・埋甕などを対象として4月19日に現地公開を行い、135名の参加者があった。中国製の磁器も含め中世～近世の陶磁器が豊富に出土しており、それらの遺物に見入る見学者も多かった。

私部南遺跡06-1では、古墳時代後期の竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑などを対象として5月9日に現地公開を行い、72名の参加者があった。今年1月20日に行った現地説明会では730名の参加者があり、のべ800名を超える人々が見学に訪れたことになる。

池島・福万寺遺跡05-2では5月17・18・22日に弥生時代前期の水田面を対象として現地公開を行った。17日には北山本小学校から43名、18日には周辺住民を中心とした一般の人々90名、22日は池島小学校から124名の見学者が訪れている。中には、「昔は、こんな物を使って生活していたんだな～」と感想を述べて帰って

行った小学生の姿もあった。

堺環濠都市遺跡06-1では、中世自治都市堺を防御する環濠4条を対象として5月26日に現地説明会を行った。「最大の環濠」「栄華の象徴」などと新聞報道・テレビ等で大きく取り上げられ、821名もの参加者があった。環濠の規模は一番大きいもので最大幅17m、深さ4.5mに及んでおり、多くの参加者が堺の繁栄を彷彿とさせる巨大な環濠を目のあたりにして感嘆のため息をもらした。

吹田操車場遺跡06-1では、弥生時代～古墳時代前半頃の河川などを対象として6月24日に現地説明会を行った。雨天の中、参加者88名。地元の歴史に思いを馳せていた。

現地公開・現地説明会の開催時に行っているアンケートでは見学した際の感動が書かれていることも多いが、上記の現地公開・現地説明会で行ったアンケートでは機会があれば遺跡をもっと訪れてみたいというものもあった。また、発掘現場近隣の小・中学生の見学が近年増えつつあり、老若を問わず幅広い層の人々が現地公開・現地説明会といった機会を利用して当センターの調査現場に訪れている。

(後川恵太郎)



堺環濠都市遺跡06-2



私部南遺跡06-1



池島・福万寺遺跡05-2



堺環濠都市遺跡06-1

＜＜玉櫛遺跡 06 – 1 出土の木製鞍＞＞

財団法人大阪府文化財センターは、府営玉櫛住宅建替えに伴い、平成 18 年 6 月から平成 19 年 2 月にかけて、茨木市玉櫛 2 丁に所在する玉櫛遺跡の発掘調査を実施しました。今回の調査によって、古墳時代後期の土坑から須恵器、土師器、石製品、馬骨、炭化米、用途不明木製品とともに非常に保存状態の良い木製鞍が出土した。

鞍は騎乗者の体重を直接受ける「居木」、それを前後に挟み込む「前輪」、「後輪」と呼ばれている部材で構成される。三つの部材を総称して鞍橋と呼んでいる。今回見つかったのは前輪である。鞍の時期は、共伴した土器から 6 世紀中ごろと考えられる。

出土した木製鞍は幅 36cm、高さ 20cm、最大厚 4.4cm で、外周は丸く削りだし、下面には断面 V 字形の切り込みを入れている。一部破損しているものの、遺存状態は良好で、前面の上段には胸繫（胸から鞍橋にわたす緒）の革帯をつなぐ左右一対の鞍孔、後面（写真）には居木と接合するため 1cm 前後の方形孔を左右三ヶ所にあけている。

これまでの木製鞍の出土例は、5 世紀代のほかは 7・8 世紀以降に下る例が中心であり、6 世紀代の例は府域では初めての出土例となる。全国的にも古墳時代の例、19 遺跡 23 例のうち 6 世紀のものは 6 例しか知られていない。その中で、本例は欠損部分が少なく、遺存状態が良好なため細部まで観察が可能である。そのため前輪と居木をつなぐ構造や革紐などで縛って固定した痕跡が仔細に検討できるなど木製鞍の構造を理解する上で注目される。（宮崎泰史）



出土した木製鞍

平成 18 年度刊行図書

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 片山荒池遺跡 (2) はざみ山遺跡 2 (3) 東倉治遺跡 II (4) 田井中遺跡 (5) 平池遺跡 (6) 有池遺跡 II (7) 上私部遺跡 I (8) 寝屋南遺跡・奥山遺跡 (9) 若宮遺跡 (10) 大西遺跡、若宮遺跡 (11) 讃良郡条里遺跡 V (12) 有池遺跡 I (13) 池島・福万寺遺跡 3 (14) 私部南遺跡 I (15) 花屋敷遺跡 I (16) 花屋敷遺跡 II (17) 上の山遺跡 II (18) 久宝寺・竜華地区 VII (19) 平成 18 年度文化財講座資料集『東アジアの古墳壁画の世界』 (20) 大阪府埋蔵文化財研究会（第 53 回）資料 (21) 大阪府埋蔵文化財研究会（第 54 回）資料 (22) 2006 年度（財）大阪府文化財センター弥生文化博物館共同研究発表会『比較・検証 南九州弥生文化の実像』 | <ul style="list-style-type: none"> (23) 2006 年度（財）大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館共同研究発表会『摂河泉古代寺院の総合的研究』 (24) 2006 年度（財）大阪府文化財センター・日本民家集落博物館共同研究発表会『住居に関する総合的研究（5）』 (25) 研究調査報告 第 4 集 (26) 研究調査報告 第 5 集 (27) 大阪文化財研究 第 30 号 (28) 大阪文化財研究 第 31 号 (29) 民家集落ふるさとだより No. 28 (30) 同 No. 29 (31) OCCH No. 34 (32) 同 No. 35 (33) 同 No. 36 (34) カルチュアはっとり No. 9
むかしの道具（発掘民具） 2. 漁具 (35) カルチュアはっとり No. 10
企画展示 禁野火薬庫の調査 (36) ここまでわかった考古学
出土木器が語る考古学
— 弥生時代・古墳時代の諸様相 — (37) ここまでわかった考古学
弥生人現れる— 大地は実り 人は祈る — (38) シンポジウム「古墳時代に生きた渡来人の軌跡」
— 長原遺跡・部屋北遺跡・上私部遺跡を中心に — 要旨集 (39) シンポジウム「木器研究最前線」
出土木器が語る考古学」発表資料集 |
|--|---|

弥生文化博物館

夏・秋の展示ご案内

夏季企画展『計る・量る・測る—度量衡の歴史展—』

大阪を中心とした計量に関連する出土品を展示のほか、秤乃館（四日市市三重県）が所蔵する実物資料を、地域や時期を越えて幅広く紹介します。また、大阪府計量検定所の全面的な協力を得て、現代に息づく暮らしの中の計量器についても解説します。

平成19年7月21日（土）～9月9日（日）

主催 大阪府立弥生文化博物館・秤乃館

共催 大阪府計量検定所

後援 和泉市・和泉市教育委員会・泉大津市・泉大津市教育委員会・(財)大阪21世紀協会・(社)大阪府計量協会

入館料 一般400円／65歳以上・高大生300円

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 毎週月曜日（ただし休日の場合は開館し、翌火曜日が休館）

秋季特別展『日向・薩摩・大隅の原像—南九州の弥生文化—』

南九州の弥生文化を多彩な視点から見つめ、日向・薩摩・大隅と呼ばれたこの地の原像に迫ります。さらに、旧石器時代・縄文時代から古墳時代・古代にいたるまでをひとつの流れでとらえ、その中で南九州の弥生文化を考えます。

平成19年9月29日（土）～12月9日（日）

主催 大阪府立弥生文化博物館・日本経済新聞社

後援 和泉市・和泉市教育委員会・泉大津市・泉大津市教育委員会・宮崎県・宮崎県教育委員会・鹿児島県・鹿児島県教育委員会・(財)大阪21世紀協会・テレビ大阪

協力 宮崎県大阪事務所・鹿児島県大阪事務所・霧島酒造株式会社・田苑酒造株式会社

入館料 一般600円／65歳以上・高大生400円

近つ飛鳥博物館

夏・秋の展示ご案内

夏季企画展『絵でみる考古学 早川和子原画展』

復元絵画の魅力は、遺跡には残っていない建物の様子や村の情景、人々の動き、さまざまな道具がどのように使われていたのかを一目で伝えられるところです。

今回の企画展では、復元絵画をとおして原始古代のなぞとその時代の人々の息づかいを、身近に感じ取っていただきたいと思います。

平成19年7月14日（土）～9月2日（日）

主催 大阪府立近つ飛鳥博物館・早川和子原画展実行委員会

後援 文化庁・読売新聞大阪本社・近畿日本鉄道株式会社

入館料 一般400円／65歳以上の方・高校・大学生300円

開館時間 午前10時～午後5時（但し入場は4時30分まで）

休館日 毎週月曜日（ただし休日の場合は開館し、翌火曜日が休館）
8月13日は開館（翌8月14日も開館）

秋季特別展『横穴式石室誕生—黄泉国の成立—』

5・6世紀以降、古墳の中心的な埋葬施設となる横穴式石室の成立は、単に古墳の埋葬施設が変化しただけでなく、追葬が普遍的におこなわれるようになり、当時の人々の死生観が大きく変化したことを示しています。

展示を通して、日本の横穴式石室の系譜の多様性と死生観の変化を見ていただきたいと思います。

平成19年10月6日（土）～12月9日（日）

主催 大阪府立近つ飛鳥博物館・朝日新聞社・朝日放送

後援 近畿日本鉄道株式会社・河南町・河南町教育委員会・太子町・太子町教育委員会

入館料 一般600円／65歳以上の方・高校・大学生400円

休館日 毎週月曜日（ただし10月8日（月）は開館、10月9日（火）は休館）

日本民家集落博物館 催しご案内(8月～11月)

◆企画展「鳥越憲三郎氏メモリアル展」

平成19年8月1日（水）～9月30日（日）

当館創立の契機を作られ、民家の選定、移築、民俗学研究に尽力された民俗学者、鳥越憲三郎氏（大阪教育大学名誉教授）の博物館設立活動を偲ぶ展示を開催します。

9月17日（祝）午後2時～3時30分には水野正好理事長による講演会「なんでもやってやろう鳥越先生」を開催します。

◆米蔵ギャラリー 写真展「北の住まいと文化を考える」

平成19年10月2日（火）～28日（日）

アイヌ民族の住居「チセ」と、当館に移築されている信濃秋山の民家の共通点について紹介し、北国の住居や暮らし、アイヌ民族と本州の人々との交流を、探っていきます。

◆アイヌ民族の伝統芸能公演

平成19年10月21日（日）小豆島の農村歌舞伎舞台にて

アイヌ民族に伝わる伝統芸能を紹介する小さな公演を開催。

口琴（ムックリ）の演奏体験も行います。

◆企画展「信濃秋山郷の暮らし2」

平成19年11月1日（木）～12月26日（水）

当館に移築されている信濃秋山の民家（旧山田家住宅）の故郷、秋山郷（長野県下水内郡栄村）に伝わる生業について、当館収蔵民具とともに紹介します。

展示にあわせて、11月の毎土曜日に秋山郷の暮らしや建築をテーマにした連続講座を開催します。講師陣は、永松敦、湯本貴和、野本寛一、青山賢信氏。各日とも、午後1時30分～3時。

◆落語で笑うて民家

平成19年11月3日（土・祝）

大和十津川の民家で素人落語会を開催します。